活動報告書

① グループ名　　一般財団法人　横浜市母子寡婦福祉会
② 提 案 名　　『子どもたちからのサプライズプレゼント』
③ 活動時期　　平成26年10月～12月
④ 効　　果

《効果１》

ゴミ拾いという行為が、フラッシュモブの体験という入口によって、仲間と楽しく参加できる活動として参加者に認識していただくことが出来ました。

残念ながら（本当の意味では良いことですが）、結果として落ちているごみが少なかったため、子どもたちの意気込みとは裏腹に回収できたごみの量は少なかったのですが、事前の練習や交流会を通じて「仲間とゴミ拾いをするぞ！」という意識を高めることは出来たと考えます。

《効果２》

今回、このような活動に参加されるのが初めてという方が多く、最初の練習日には「子どもが対象の企画だから」と遠巻きに見ているだけのお母さん方が多かったのですが、練習の合間などに交流会を実施し、必然的におしゃべりをする機会を設けたことで、自然に講師やスタッフのフォローをしてくれるなど、お母さん同士で連携を取り合う姿がみられました。お母さん同士が仲良くなり笑顔になることで、お子さんも『安心して楽しい』と思える空間であったことは、やはり子どもたちの笑顔から読み取ることが出来ました。

普段『一人で母親役と父親役を担っている』お母さん方にとって、同じような立場の方と話をする機会はとても少なく、今回の企画は心の壁を低くして互いに共感し合える場でもあったと思います。その安心感が子どもたちに伝わったことは言うまでもありません。

《効果３》

劇団四季などで活躍された、プロのアーティストの方々から直接指導を受ける機会は、子どもたちにとって生のパフォーマンスに触れる機会であると同時に、才能と努力によって磨かれる世界で生きているからこその人生観に触れる機会でもあったと思います。

また事前の指導を通し、単に踊るという動作ではなく、『知らない人の前で表現すること』は子どもたちだけでなく、お母さんたちにとっても、自分を解放する機会でもあったと思われます。

一人では恥ずかしくて出来ないことも、仲間といるから安心して思い切って楽しめる。さらに自分の行動で笑顔になった周りの人たちの様子に自己肯定感を高めるきっかけとなったと感じました。

事前練習の様子⇒

《効果４》

子どもたちが講師やボランティアスタッフなど、男性と安心して関わる機会を得られました。

今回の参加は全て母子家庭であったこともあるせいか、最初は緊張していた子どもたちも、特に男の子などは身体に体当たりしたり、よじ登ったり体力的な遊びを求めている場面が多くあり、自然に男性に興味を持って接している様子が見受けられました。

通常当法人が実施している活動に男性が関わることは殆どなく、また子どもたちが普段接している男性は教師や祖父など、体当たりで接することは控えられる対象であることが多いことを考えると、今後当法人が事業を実施してくうえで、お母さん方が安心して参加できる場であると同時に、子どもたちがどう刺激を受けることが出来るかを考えなければならないと痛感しました。

《効果５》

今回の活動を知った地元企業の方々が、当日の見守りボランティアとして加わってくださいました。

企業人として社会貢献活動には参加されていらっしゃるようですが、それとは別に個人として何か出来ることはないかとそのきっかけを探していたそうです。

自分自身が興味を持ったことに取り組むことこそ本来のボランティアの意味を成していることを考えると、当初の意図にはなかったものの、今回の活動が地元企業で働きながらも、もっと地元に貢献したいと考えていた大人がその一歩を踏み出すきっかけになったようです。

またこの方々が、継続して当法人事業への関わりを希望してくださり、心強い味方が出来た思いです。

当日見守りボランティアとして
参加していただいた方々から
クリスマスプレゼントを頂きました

《効果６》

おしゃれな大人の街と認識されているみなとみらい地域は、横浜市内でも他地域にお住いの方にとって特に大人一人が子連れでは足が遠のきやすい場所でもあります。今回のイベントをきっかけに参加者のみならず、事前のお申し込みはなかったものの当日物見遊山でお越しになった方々、ボランティアスタッフからも、「海の見える広い公園もあり、お弁当持参でまた来たい」「子連れでも安心・清潔な街だということを知った」という声を頂きました。

無料で憩える場所があり、トイレや休憩場所など子連れでも安心で清潔な施設がある地域として、少なからず認識していただけたと思います。

⑤　今後の活動

今回の活動を実現するために、本町小学校キッズクラブなどに募集を行いましたが、日程が合わず、参加されたのは母子家庭世帯のみという結果となってしまいました。

助成金を頂くことが出来たからこそプロの講師に依頼できたという点は、非営利の法人では今まで実現できなかったことではありますが、特に《効果２》などを考えると、次回以降のエリアマネジメント助成金の活動対象とはならないと思われました。

また《効果５》のように、結果として母子家庭世帯が対象であったからこそ、働く個人のボランティア参加もあることを考えると、やはり今回得られた《効果４》などを今後の事業運営に活かしながら実施していくべきではないかと考えます。

当初は広く参加を募ることで、ひとり親家庭に限らず子どもたちへの刺激にと企画してみましたが、実際のところは参加するお母さん方の心の壁を低くするところから始める必要があると実感し、今回を非常に大きなきっかけとして今後も活動を継続して参りたいと思います。

※当日の活動はビデオ撮影したため、写真の掲載は出来ませんでした。

第６号様式（第18条）

収　支　決　算　書

団体名　　一般財団法人　横浜市母子寡婦福祉会

1　収入

項　　目	金　　額	説明（負担者及び負担方法等）
交付された助成金（A）	280,000	
自己資金	70,000	
合　　計	350,000	

2　支出（助成金対象経費分）

項　　目	数量（単位）	単　価	金　額	説　　明
講師派遣	8	11,137	89,097	11/23（am・pm）、11/29（am）、12/6
イベント保険	78	28	2,184	参加者16名、スタッフ10名 3日分
賃借料			6,650	11/23（am・pm）、11/29（am）
印刷代	790	15	11,850	チラシ700枚 配布資料90枚
スタッフ交通費	15	2,000	13,953	11/23、11/29、12/6 ※領収書は30,000円だが、交通費・人件費の合計を1/2以下にするため減額
アルバイト人件費	15	5,000	75,000	11/23、11/29、12/6
消耗品	一式		12,021	貼れパネ、コピー用紙、軍手、CD-R等
通信運搬費	153	76	11,628	ゆうメール
合　　計（B）			222,383	

3　決算後の助成金の額

【みなとコース】

(1)　（A）≦（B）の場合　（A）の額　¥　.－

(2)　（A）＞（B）の場合　（B）の額　¥　.－

【みらいコース】

(1)　（A）≦（B）×４／５の場合　（A）の額　¥　.－

(2)　（A）＞（B）×４／５の場合　（B）×４／５の額　¥　177,906.－